

令和 6 年度修習技術者支援委員会報告



株式会社ファルコン

平野 嘉久

(Hirano Yoshihisa)

建設部門・総合技術監理部門

1. はじめに

徳島県技術士会に入会し、はや4年半が経過しようとしている。本会では、令和5年度から修習技術者支援委員としての活動に参画している。実務をこなしながらの活動であり、思うようにできていないが、できる限り参画できるよう調整している。その理由は単純明快であり、私が技術士取得を目指している際に、徳島県技術士会の会員各位に多大なるお力添えを頂いたからである。

技術士となり、自己研さんはもとより、次世代の人材育成も重要な使命であると考えている。技術士取得の際にお力添えを頂いた皆様に、直接的に【恩返し】をすることは難しいため、修習技術者支援委員として次世代へと【恩送り】をしているつもりである。

本稿では、次世代への【恩送り】の一環として参画した、今年度の修習技術者支援委員会の活動内容を報告する。

2. 修習技術者支援委員会の目的

修習技術者支援委員会の目的は、文字どおり修習技術者の方が技術士となるための支援活動だと考える。具体的には、技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）を正しく理解していただき、技術士とは何か、どうあるべきか、どうすれば資質能力を向上させることができるかを伝え、技術士習得に向けた個人活動を支援するものと考えている。

また、技術士を含めた資格は、取得することが目的ではなく、あくまで取得後の業務遂行における手段である。技術士に合格すれば終わりではなく、技術士としての始まりであると考えべきである。「技術士法第47条の2」には、資質向上の責務が規定されている。技術士の皆様も修習技術者支援委員会の活動にご参加いただき、一緒にご自身のCPD活動に繋がっていただきたいと思います。

3. 今年度の活動内容

今年度の活動内容の概要を以下に示す。

(1) 令和6年度 技術士受験支援講習会（出発セミナー）一般部門

- 日 時：令和6年3月25日(月) 18:00～21:00
- 開催場所：あわぎんホール 5F 会議室6
- 内 容：SUKIYAKI 塾 鳥居先生による出願対策セミナー（受験申込書の書き方等）
- 参加者：24名（内訳：鳥居先生、スタッフ7名、受講者16名）

(2) 令和5年度 技術士第二次試験 合格者体験談発表会

- 日 時：令和6年4月20日(土) 13:30～17:00
- 開催場所：あわぎんホール 4F 会議室5
- 内 容：合格体験談発表（取組み事例等、発表者一人あたり25分+質疑応答）
- 参加者：17名（内訳：発表者5名、スタッフ5名、受講者7名）

(3) 令和6年度 技術士受験支援講習会（筆記試験対策セミナー）一般部門

- 日 時：令和6年5月7日(火) 18:00～21:00
- 開催場所：あわぎんホール 5F 会議室6
- 内 容：SUKIYAKI 塾 鳥居先生による筆記試験対策
- 参加者：37名（内訳：鳥居先生、スタッフ7名、受講者29名）

(4) 令和6年度 技術士第二次試験 模擬口頭試験

- 日 時：令和6年11月24日(日) 13:00～17:00
- 開催場所：あわぎんホール 4F 会議室5
- 内 容：模擬口頭試験（受験者一人あたり20分+講評10分）
- 参加者：25名（内訳：試験官12名、受験者10名、見学者3名）

なお、次年度も今年度と同様の活動を計画しており、年間スケジュール（案）を表-1に示す。

表-1 年間スケジュール（案）

項目	月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
技術士試験			受験申込			筆記試験					口頭試験			
合格発表									筆記試験 合格発表					二次試験 合格発表
セミナー		○ (出願)	○ (筆記)											○ (出願)
模擬試験										○ (口頭)				
合格体験談			○											

※技術士試験及び合格発表の時期は、令和6年度実施と同時期としている
 ※セミナー、模擬試験、合格体験談の開催時期は、現時点での予定である

3-1. 令和6年度 技術士受験支援講習会 （出発セミナー）一般部門 活動報告

(1) 実施結果

- ① 技術士受験支援サイト「SUKIYAKI 塾」の管理者 APEC さんこと鳥居直也氏を講師に迎えての令和6年度技術士受験支援講習会（出発セミナー）一般部門は、年度末の平日



写真-1 講習会の状況

の忙しい中、16 名の方にご参加いただいた（写真-1、写真-2 参照）

- ② 受講者は、建設コンサルタント勤務の方が多く建設部門の方が大半を占めたが、その他部門の参加者もあった
- ③ 試験制度改正から 6 年目となり、試験に対する情報も充実していた
- ④ 鳥居先生の話では、そろそろ受験制度が改正される時期とのこと



写真-2 説明を熱心に聞く受講者

- ⑤ 最後に質疑応答の時間を設け、受講者が業務詳細など不安や疑問に感じたこと積極的に質問することで、他の受講者にとっても有用な情報を得られたと思う
- ⑥ 動画配信やリモートによるセミナーが多い中、対面での講義は非常に貴重で、受講者にとって大変分かりやすい講義とすることができた

(2) 意見・送り事項等

- ① 年度末であったためか、受講者を集めるのに大変苦労した
- ② 参加者が少ないと採算を合わすことが困難となるため、多くの方に参加して頂くように会員の方にもご協力お願いしたい
- ③ 本セミナーのあり方について、委員会として議論することとした

3-2. 令和 5 年度 技術士第二次試験 合格者体験談発表会 活動報告

(1) 実施結果

- ① 令和 5 年度技術士第二次試験合格者を講師に迎え、年度初めかつ土曜日開催にもかかわらず 12 名（内、講師 5 名）に参加いただいた（写真-3 参照）
- ② 各講師の部門は、農業部門（農業・食品 1 名）、建設部門（河川、砂防及び海岸・海洋 1 名、鋼構造及びコンクリート 2 名、道路 1 名）であった



写真-3 合格体験談発表会の状況

- ③ 受講者は、全員が建設コンサルタント勤務の方であった
- ④ 各講師から、受験動機から筆記試験対策、口頭試験対策、実際の筆記試験時の思考プロセスを分かりやすく解説いただいた（写真-4 参照）
有意義な情報を惜しみなく発表いただいたため、受講者にとって大変有用な情報を得られたと思う
- ⑤ 各講師の発表の合間及び最後に質疑応答の時間を設けることで、有意義な情報交換ができた

- ⑥ 修習技術者からも講師に対し質問があり、不安に感じていることやわからなかったことの解決の糸口になったものと考え

(2) 意見・申送り事項等

- ① 年度始め、かつ休日（土曜日）開催であったためか、出発セミナーと同様、受講者を集めることに大変苦勞した
- ② 合格に至るまでの過程をわかりやすく説明いただき非常に有意義な時間であった
各講師のアプローチの仕方は様々であり、記述試験等の対策に悩んでいる修習技術者にとって、よい情報収集の機会になったと思う
- ③ 講師を含む参加者に協力頂き、アンケートを実施した
- ④ アンケート結果から、本講習会の情報入手先はDM及び社内等の組織内情報が多数であった
- ⑤ 学習感想について、ほぼ全員が知識等が【深まった】と回答しており、有意義な内容であったと判断される
- ⑥ 参加費について、全員がちょうどよいと回答しており、金額設定に問題ないと判断される
- ⑦ オンライン開催を行った場合、約半数の方がオンラインでの参加と回答している
- ⑧ 希望の開催曜日については若干、平日を希望する方が多く、その中での夕方以降と回答した方が多かった
- ⑨ 本項①やアンケート結果及び受講者集めに大変苦勞したことを踏まえると、本講習会の開催意義若しくは開催案内の周知方法について、委員会として議論することとした



写真-4 講師による発表状況（代表写真）

3-3. 令和6年度 技術士受験支援講習会（筆記試験対策セミナー）一般部門 活動報告

(1) 実施結果

- ① 技術士受験支援サイト「SUKIYAKI 塾」の管理者 APEC さんこと鳥居直也氏を講師に迎えての令和6年度技術士受験支援講習会（筆記対策セミナー）一般部門は、大型連休明けの忙しい中、29名の方に参加いただいた（写真-5～写真-7 参照）
- ② 受講者は、建設コンサルタント勤務の方が多く、大半を建設部門が占めた



写真-5 修習技術者支援委員長による挨拶

- ③ 試験制度改正から6年目ということもあり、試験に対する情報が充実していた
- ④ 来年度は受験制度が改正される見込みであり、今年ほどの具体的な試験対策は望めないとのこと
したがって、今回はチャンスの年と位置付け、時間枠を最大限活用した熱量あふれる講義となった
- ⑤ 今年度は、答案用紙に図表を用いて解答する場合においても、原則、1マス1文字とすることとなっている（問題に特段の指示がある場合を除く）
受験案内の読み込みが重要である
- ⑥ 動画配信やリモートによるセミナーが多い中、対面での講義は非常に貴重で、受講者の理解も深まった

(2) 意見・送り事項等

- ① 参加者に協力頂きアンケートを実施した
- ② 高松市など、遠方から参加された受講者を中心にオンラインでの参加希望者が多い（62%）中、一定数の対面参加希望者（35%）があった
- ③ 4月中のセミナー開催など前倒しでの実施要望があり、開催時期について委員会として議論することとした

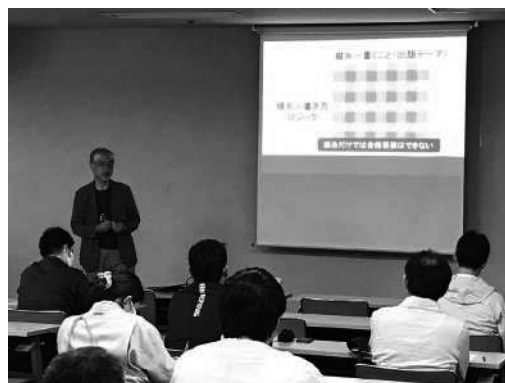


写真-6 講習会の状況



写真-7 説明を熱心に聞く受講者

3-4. 令和6年度 技術士第二次試験 模擬口頭試験 活動報告

(1) 実施結果

- ① 受験者10名、見学者3名、試験官12名の計25名が集まった（写真-8参照）
- ② 昨年の受験者5名から増加した要因として、昨年は合格発表から10日程度、今回は26日程度経過しており、受験者の準備期間が十分にあったことが考えられる
- ③ 模擬口答試験は16時頃に終了したが、終了後に3名の受験者に対し意見交換を実施した
- ④ アンケートは、見学者を含めて12名から回答があった



写真-8 模擬口答試験の実施状況

(2) 意見・送り事項等

本年度の模擬口頭試験について、実施に至るまでのプロセスを振り返り、次回以降の改善点を以下に示す。

はじめに、模擬口頭試験の実施には、以下の準備が必要である。

①会場の予約→ ②受験申込案内→ ③受験申込受付（資料提出）→
④受験生に応じた試験官の要請→ ⑤試験官による想定問題作成→ ⑥模擬口頭試験

以下では、各プロセスにおける具体的な反省点および改善案を示す。

1. 会場の早期予約

徳島県・徳島市での実施を考慮すると、「あわぎんホール」や「シビックセンター」などが適した会場候補となる。ただし、筆記試験合格発表前後に予約を試みると希望の会場を確保できないリスクがある。また、受験者数の増加を見込むには、11月中旬から下旬にかけて早期に予約することが重要である。

これらを踏まえ、模擬試験終了後すぐに令和7年の予約を実施した。

2. 開催時期の調整

模擬口頭試験は、筆記試験合格発表（10月末頃）から一定期間を空けて実施することで、受験者数の増加が期待できる。一方で、試験官が設問を準備する時間を確保する必要もあるため、11月中旬から下旬の開催が適切である。今後も模擬試験終了時に1年後の仮予約を行い、開催時期を安定させるよう調整していく。

3. 見学者への対応

今回、見学者を上限3名まで事前募集した。見学者の中には、自社での評価を得るため資格取得を目指している方もおり、感想から一定の効果が認められた。今後も同様の枠を設ける方針とする。見学者からのフィードバックをさらに活用し、試験運営の質向上にも役立てる。

4. 参加費の見直し

アンケート結果や模擬試験の必要性を踏まえると、参加費を1,000円から2,000円に引き上げることが妥当と考えられる。次回は2,000円の参加費で運営する方向で検討する。

4. おわりに

出発セミナー/筆記試験対策セミナーの講師を務めて頂いた鳥居先生をはじめ、合格体験談で貴重な情報を惜しみなく発表して頂いた合格者各位、各活動にてご協力頂いた徳島県技術士会会員各位に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

修習技術者支援委員会の活動は、皆様のお力添えがあつてこそ、より有意義な活動ができるものであります。引き続きお力添え賜りますよう、お願い申し上げます。

以上